

出社の回数削減にも貢献

Withコロナ時代に有効な 機密文書抹消サービス「Smart保護くん」

「情報」の価値が高まる一方の社会において、情報漏えいは企業にとって命取りになる。最終プロセスである機密文書の抹消にも細心の注意が必要だ。とはいえ、大量の文書の処理は手間が掛かるもの。そこで今注目されているのが、高度なセキュリティで確実に機密文書を抹消するサービス「保護(まもる)くん」に、容量を検知するセンサーが付いた「Smart保護(まもる)くん」だ。同サービスを導入している株式会社Gunosyに、選定理由や導入効果について話を聞いた。

社員の増加に伴い見直した 機密抹消の方法

株式会社Gunosyは、「情報を世界中の人に最適に届ける」を企業理念とし、情報セキュリティサービス「グノシー」、話題のニュースを自動的に選定して届ける「ニュースパス」等、独自のアルゴリズムを活用して費用対効果の高い広告出稿を可能にする「Gunosy Ads」など、幅広い事業展開をしている。

春からリモートワークを導入し、現在もリモートワークを実施している同社では、ペーパーレス化を進めているもののクライアント向けの資料や契約書、社内各種申請書、経理関係など、まだまだ紙ベースのものが多いという。そうした機密文書を安全に抹消するために同社が選んだのは、シュレッダーではなく、セキュリティボックス「保護(まもる)くん」だった。

同社が設立されたのは二〇一二年一月。翌年の六月には同社にとって初の「保護(まもる)くん」を導入している。当時の経緯を、コーポレート本部の青木直子さんが振り返る。

「設立直後は社員の半数以上が開発担当者でした。その頃は借りていたビルに大きなシュレッダーが設置されていたので、毎回シュレッダーにかけて、中身を持ち帰って捨てるという作業をしていたのです。でも社員が増え、経理など管理部門にも専門の担当者が入

ったタイミングで、機密抹消の業務効率を考え始めました」

投入したら 二度と取り出せない 人の手を介さずに 機密文書を処理

よりセキュアで、処理の手間が掛からない方法は何か。「保護(まもる)くん」は、サイバー系以外の情報漏えいで九割を占めるといふ内部からの流出を防ぐために開発された、不要機密文書専用の回収ボックスだ。同社が使っているタイプにはポストのような投入口があり、一度投入された機密文書は二度と取り出せない。容量がいっぱいになると、サービスを提供する株式会社日本パープルが回収するのだが、担当するのは機密保持適格審査に合格したサービスプロモーターたちだ。回収された「保護(まもる)くん」は特殊車両で専門工場へ運搬される。そこでロボットにより初めて解錠され、中の機密文書が処理されるのだ。

処理の完了まで一切、人手を介さないからこそ最高レベルのセキュリティが担保される。機密文書の詰まった金庫を、毎月新しいものと交換するイメージだ。機械ではないのでシュレッダーのような故障トラブルの心配がなく、メンテナンスの費用もかからない。クリップやバインダーを外さず、そのまま投入できるのも便利だ。

「前職で『保護(まもる)くん』を使っていた社員に薦められ、導入しました。最初はSサイズでしたが、現在はコーポレート本部とメディア・広告部にそれぞれMサイズを設置しています。機密文書が多いのは人事、総務、経理などの管理部門が集まっているコーポレート本部ですね」

リモートワークでペーパーレスを進めているものの、やはりコーポレート本部のメインの機密文書は紙ベースが多い。同じくコーポレート本部の迫恵里奈さんは、もう一方のメディア・広告部ではクライアントから預かった内容もあり、完全な抹消が不可欠だという。「私が入社したときにはすでに『保

護(まもる)くん」が導入されていたので、なくなったら大変困ります」

Mサイズ一基で約一〇〇〜一二〇キログラムの収容力があり、シュレッダーボックスのゴミ袋四五リットル入りに換算すると、最大一〇〇袋に相当する。オフィス内にこれだけのゴミを抱える

ことを考えれば、スペース的にも大きな節約になる。

見守り機能によりさらに進化 見回りと依頼の手間を省く

日本パープルは七月に、新機種である『Smart保護(まもる)くん』のリリースを発表した。Gunosyには二〇一七年から、トライアルとしてこの新機種が置かれていた。従来の機種との違いは、容量を検知するセンサーと交換を通知する通信ユニットというIoT機能が付いたことにある。IoT機能がない機種は、内部の容量を壁の小窓から目視で確認し、電話で

交換依頼をしていた。回収には、月一回の定期と、容量が上限に達する程度の不定期、二つのコースがある。Gunosyが契約しているのは不定期コースだ。「オフィスがまだ小さかった頃は、定期的に見回りをして容量を確認するのが大した手間とは思っていませんでした。ただ、『そろそろかな』と思っただけからあつという間にいっぱいになってしまふ時期があるんです。年度末、年末年始、それから大きな異動でオフィスのレイアウトが変わったときですね。そういうときは、いつもより小さな見回りが必要でした」(青木さん)

新機種はセンサーが自動的に容量を自動計測し、いっぱいになる前に日本パープルに知らせる。最適な交換日やメールで連絡してくれるので、総務担当者は内容を確認するだけで回収依頼が完了する。「見回り」と「依頼」という二つの手間が要らなくなるわけだ。

「総務は雑務が多いので、一つでもプロセスが不要になると助かります。ほかのことをしている途中で容量がいっぱいだと気付いても、机に戻るまでに依頼するのを忘れてしまうこともありです。今となってはセンサーなしの機種は考えられません」(迫さん)

「Smart保護(まもる)くん」は



株式会社Gunosy コーポレート本部 組織運営部 総務チーム
青木直子さん(右) 迫 恵里奈さん(左)

問い合わせ先

株式会社 日本パープル

0120-826-066

https://www.mamoru-kun.com/